

Members

Professor 伊藤香織

Assistant Professor 丹羽由佳理

M2	M1	B4
飯田遼平	栗田恵	植木規高
小田健人	末富亮	大家弘也
木崎美帆	鈴木俊	落合みずほ
草谷悠介	鈴木宗一郎	柴田史奈
栗田純吾	宋歆月	清水翔太
神田夏子	中村健人	浜崎直也
権田貴之	早川貴光	
西山貴史	柳原仁	

fab C. vol.10

2016年1月1日発行

□編集

大家弘也 落合みずほ

□発行

東京理科大学工学部建築学科

伊藤香織都市計画都市デザイン研究室

〒278-8510

千葉県野田市山崎 2641

TEL 04-7123-4785

URL <http://www.rs.noda.tus.ac.jp/~i-lab/>

□印刷・製本

祥美印刷株式会社

fab C. は伊藤香織研究室（東京理科大学工学部建築学科）が発行するフリーペーパーです。研究室の活動を中心に、都市の研究とデザインに関する情報やメッセージを発信する媒体を目指しています。

お陰様で、東京理科大学工学部建築学科伊藤香織研究室は10年を迎え、卒業生も120人を超えました。併せて、伊藤は教授を拝命いたしました。誌面を借りてご挨拶を申し上げます。本誌名の元になった City / Creativity / Curiosity をキーワードに、より良い都市研究及び都市づくりに邁進していく所存です。今後とも皆様方のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

伊藤香織

# fab C.



- 02 fab C.10号記念
- 04 公共空間の使いこなしカタログ
- 08 研究室プロジェクト
- 10 学生プロジェクト
- 12 学生の活動
- 14 ピクニックインタビュー
- 17 丹羽由佳理助教の退任に寄せて
- 18 論文・設計

# vol.10

# fab C. 10号記念

このたび fab C. は第 10 号を迎えました。10 号を記念して、歴代の編集を担当した研究室の OB・OG、在学生に思い出等を聞きました。

fab C. の創刊に携わりました。サイズを決める際に、将来的に CD や DVD を添付できるようにと、考えて決めたのでいつか実現してほしいです。

## Vol.1

第 1 期生 佐々木杏子

尾上君と共に、デザイン、構成、印刷、裁断、製本等のすべてを、何日も徹夜し、色々な方に迷惑をかけながら手作りの、今では良い思い出です。笑

## Vol.1

第 2 期生 篠田尚紀

一番の思い出は、恋人のように明け方まで先生とメールをやり取りしたこと。 「モノづくり」に対する熱意、愛情を確と受けとめました。

## Vol.7

第 8 期生 大矢遼太

ピクニックのページを特にこだわりました。伊藤研ならではのイベントなので、写真や色使い、文面からその楽しさが伝わるような工夫を凝らしました。

## Vol.8

第 9 期生 神田夏子

写真の素材集めに苦労しました。芝生に本を並べた写真を撮るときには、画角確保のために川喜田を肩車して腰を痛めました。鈴木さん、クリスマス帰らせなくてすみません。

## Vol.3

第 4 期生 益子岳貴

伊藤研の活動は設計からまちづくり活動や交通計画等多岐にわたるので、それをどう表現したら伝わるのか、まとめるのに苦労した記憶があります。

## Vol.4

第 5 期生 秋山洋亮

とても有意義な異文化交流となったミネソタ WS での集合写真がお気に入りです。地図柄の表紙に「Hab」の文字が隠れているので、ぜひ探してみてください！

## Vol.8

第 9 期生 西山貴史

「三徹はするよ」-by 西山先輩。この言葉から fab C. への恐怖は始まった。しかし時が経ち、気付くと恐怖は消えていた。ああ、なんて楽しい作業だったのだろう。

## Vol.9

第 10 期生 鈴木宗一郎

滲みや歪みなどを表現し、ひとの手が加わった温かみのあるものを目指しました。すっかり編集者気取りでしたが、皆さんと楽しくやれた良い思い出です笑

## Vol.5

第 6 期生 富川卓也

毎年のごとく、fab C. 制作時期は年末の忙しい時期に本格化するもので、とにかく忙しかったという思い出ですが、決められた枠の中にどう分かりやすく情報を配置するかというデザインの基本を学べる制作物だと思います。

## Vol.6

第 7 期生 上原慧史

伊藤先生が貸してくださった本を参考にして、最終的には fab C. が漫画っぽくなりました！大変でしたが結構楽しめました！

## Vol.9

第 10 期生 宋歆月

記念となる 10 冊目なので伊藤研の歴史を振り返れるようなものを目指しました。下の帯のレイアウトを様々な足跡を入れ、時間軸演出にこだわりました。

## Vol.10

第 11 期生 大家弘也 落合みずほ



# 公共空間の使いこなしかタログ

日本建築学会『建築雑誌』2015年10月号「住むためのパブリックスペース」特集に、伊藤研究室が担当した6ページの記事が掲載されました。

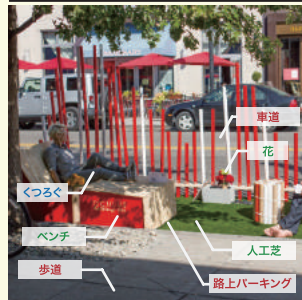
近年増えている公共空間の使いこなしに着目し、国内外の29の事例を集めました。右ページに抜粋を掲載します。特徴は、生活の一部であると同時に自分自身が都市景観の一部になることを楽しんでいること、コミュニティ空間だけでなく見知らぬ他者と共存する公共空間が積極的に使われていること、手法や道具立てのオープンソース化です。

これらの事例には、公共空間に対する当事者意識を喚起するヒントもありました。たとえば土が出ていところを見つけては野菜を育て、誰でもそれを食べて良い「インクレディブル・エディブル・トッドモダン」は、公共空間は自分の営為によって変わりうることを可視化しています。道路の真ん中を何キロもローラーブレードで走っていきける「パリ・ローラー」や、まちを一望する橋の上に芝生を敷き詰めてピクニックができる「ブレイクファスト・オン・ザ・ブリッジ」のように、普段使えない場所が使える非日常体験は、公共空間で過ごす時間の魅力に気付くきっかけになります。キャラバン隊がやってきてちょっとした場所を借りて突然カレーを作り始める「カレー・キャラバン」や空き地を貸し出して自由な発想で活用してもらおう「貸はらっぱ音地 (ondi)」のように、私有私用の空間を少し公共に開いてみる試みで、公共空間と暮らしとの接点が発見されます。

伊藤香織＋東京理科大学理工学部建築学科伊藤研究室有志(栗田純吾, 栗田恵, 末富亮, 鈴木俊, 鈴木宗一郎, 宋歆月, 早川貴光, 柳原仁)(2015), 公共空間の使いこなしかタログ, 建築雑誌, vol.130 No.1676 2015.10, pp.10-15.



## Park(ing) Day



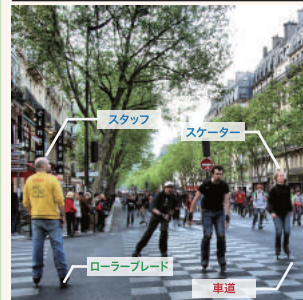
CC-BY / Aimee Custis flickr-5215

主催:	(各個人)	
活動期間:	2005~	
空間:	街路	
場面:	余暇	
使い方:	一時占用・賃借	
ネットワーク型	10	

サンフランシスコのアクティビスト・アーティストたちがパーキングメーターの料金を支払い、制限時間の2時間だけ路上に芝生を敷き、ベンチと植木を置いて小さな公園を創出。活動は広がり、9月第3金曜日に世界で行われている。一方、SF市は意義を認め、パークレット事業を開始。

枠組みに乗る

## パリローラー



CC-BY / Jim Linwood Roller Skates Race In The Boulevard Saint-Germain

主催:	PARI ROLLER	
活動期間:	1993~	
空間:	街路	
場面:	スポーツ	
使い方:	一時占有(回避)	
拠点型	1,000	

毎週金曜日夜10時から深夜1時、パリの街路をローラーブレードで駆け巡る。ローラーブレードをはいたスタッフと警官が集団の前後を挟み、その区間は自動車通行止めとなる。普段は自動車に占用されている車道を思い切り走り抜けることができ人気を博す。遅く走る人も参加できる日曜午後の催しもある。

アクティブに使う

「公共空間の使いこなしカタログ」制作に携わった伊藤研究室メンバーに、好きな広場について聞いてみました。

### 伊勢丹新宿本店屋上 アイガーデン

多くの利用者と賑わう都心の屋上庭園です。子供が走り回れる広い芝が魅力です。また民間企業の公共への貢献として価値のあるものだと考えています。

栗田純吾



### 天安門広場

広場というと、一番に思い浮かぶのは天安門広場です。国家行事や歴史上の大事件の舞台となって、50万人収容できる世界最大の広場です。

宋歆月



### 京都駅

京都駅の広場群です。この場所に来ると、「京都に来た」という感じがします。夜景がきれいなことは元より、朝の清々しさも印象的です。

早川貴光



### バラナシ

インドのバラナシ。人や鳥や牛などが溢れ活気ある場や、喧騒から遠ざかった心休まる場所が川沿いに広がる。自然と無心になれる不思議な場所。

末富亮



### 新宿三井ビル 55 ひろば

最近よく訪れるのは、「新宿三井ビル 55 ひろば」です。都会の窪みにあり、地上とのレベル差より現れる小さな滝の BGM もまた、居心地の良さを演出しています。

鈴木宗一郎



### 雁木通りプラザ横の広場

新潟県上越市、雁木通りプラザ横の広場です。江戸時代高田藩の町会所が置かれ、現在は祭りの時にたまり場になったりと市民の憩いの場になっています。

柳原仁



### オールドマーケットスクエア ノッティンガム

単に意匠的に美しいだけではなく、歩行者の軌跡など分析的な手法を用いて形態が決定されています。デザインと分析をうまく架橋していて好感が持てます。

鈴木俊

photo: "My city is stunning today" by Simon Collison (CC BY-NC-ND)



### 新宿西口広場

新宿西口広場。反戦フォークゲリラ事件以降人の滞在は禁止されていますが、あの場所が車のこない芝生広場になったら（笑）仕事の合間に行きたいです。

栗田恵





# 研究室プロジェクト

第17回まちの活性化・都市デザイン競技で「(公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞」を受賞しました！

「足を止める駅・ゆっくり行く道：遅い交通・狭い圏域・待つ時間を豊かさに転換する」

伊藤香織, 中畑昌之, 丹羽由佳理, 飯田遼平, 小田健人, 草谷悠介, 栗田純吾, 神田夏子, 権田貴之, 西山貴史, 栗田恵

長野県飯田市を敷地とした「まちの活性化・都市デザイン競技」に参加しました。「プラザを囲む駅複合施設」「シェアスペース・歩行者街路」「3つのゾーンを持つ中央公園」を設計し、リニア新幹線の利便性を享受しつつも、対極にあるゆっくりした豊かさを見直す中心市街地づくりを提案しました。「JR飯田駅周辺整備についての提案が魅力的で、都市デザインの構想が優れているところが評価された。広場、駅舎関係の建築群の空間構成が東南に開ける街との一体感を作り出し、人にやさしい駅の玄関となっている。」などの審査評をいただきました。



## まちの活性化・都市デザイン競技

研究室の有志で南富山駅周辺地区を対象としたデザイン競技に取り組んでいます。この地区は富山市では中心市街地に続く第二の核と言われており、現地調査を元に、まちの潜在的な魅力を引き出す提案を考えています。

伊藤香織, 丹羽由佳理, 鈴木俊, 鈴木宗一郎, 宋敬月, 中村健人, 早川貴光, 柳原仁, 大家弘也, 柴田史奈



## シビックプライド研究会

『シビックプライド2【国内編】：都市と市民のかかわりをデザインする』が2015年9月に出版されました。シビックプライド（都市に対する市民の誇り）が個人個人のアクションと結びついてまちを変えていくことが書かれています。伊藤教授が代表を務めるシビックプライド研究会の成果で、2008年に出版された『シビックプライド：都市のコミュニケーションをデザインする』の続編です。今回の出版では、学生の頃から研究会に参加している研究室OGの小島桃子さん（1期生）と片田江由佳さん（5期生）も執筆者に加わっています。

伊藤香織・紫牟田伸子（監修）、シビックプライド研究会（編著）（2015）、『シビックプライド2【国内編】：都市と市民のかかわりをデザインする』、宣伝会議。



## 福井県庁線 道路空間再編調査

福井駅前から福井城址をつなぐ道路「県庁線」の道路空間再編提案のために、国内各地の道路空間再編事例を集めました。建築の図面は普段からよく見ますが、道路の図面はあまり見たことがなかったので、苦心しました。

伊藤香織, 丹羽由佳理, 栗田恵, 末富亮, 鈴木俊, 早川貴光, 柳原仁



## 浜松新川プロムナード(仮)

非常勤講師の中畑昌之さんと協働して、浜松市の遠州鉄道高架下の新川緑地を、人々が心地よく歩き、憩い、集まる場所にする提案を構想中です。特徴的な門型高架橋脚を活かし、まちなかの魅力増進を目指します。

中畑昌之, 伊藤香織, 丹羽由佳理, 栗田恵, 鈴木俊



# 学生プロジェクト

## 東京都庭園美術館共同ワークショップ「あーととあそぶにわ」



伊藤研究室では、2014年から東京都庭園美術館の主催する子供と美術の壁をなくすアートプログラムの企画、運営に協力しています。2015年夏はプログラムの企画、運営の他に、仮設型の日陰の提案、製作を行いました。プログラム内容は美術館のお庭と館内を使った紙芝居と宝探しゲームです。子供に楽しんでもらうだけでなく、美術館を身近に感じてもらうよう、館内の展示物をモチーフにプログラムを考えました。夏の暑い中たくさんのご家族が参加し、一緒に夢中になって宝を探すことで、美術館を身近に感じてもらいました。

木崎美帆, 栗田順吾, 神田夏子, 栗田恵, 鈴木俊, 鈴木宗一郎, 早川貴光, 落合みずほ

## 活動メンバーの声：栗田純吾

子供達の喜ぶ姿がとても印象的でした。また考えたことを実際に一般の方々に楽しんでもらうことは、実践することの難しさや工夫を学ぶ最高の機会であるとともに、とても楽しくやりがいがありました。



## 子供のまち・いえワークショップ提案コンペ「まちおとハンティング」

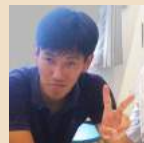


日本建築学会主催「第5回 子供のまち・いえワークショップ提案コンペ」で優秀賞を受賞した案を流山市おおたかの森センター等のご協力のもと実現しました。まちの中に隠れている「まちおと」(擬音語)を探し出すことで、まちをつくるひとつひとつのものを見て、触って、感じようというWSです。普段私たちが学んでいる建築や都市といったものは専門的で、子供たちにはなかなか敷居が高く感じます。そういう専門的なものではなく、子どもたちがもっと身近に建築や都市を感じられるように建築の社会教育の一環として今回のWSを企画しました。

栗田恵, 鈴木俊, 鈴木宗一郎, 柳原仁, 高瀬結惟 (岩岡研究室), 原百合子 (岩岡研究室), 村松かなえ (安原研究室)

## 活動メンバーの声：鈴木俊

ももとは6月に建築学会のコンペで優秀賞を受賞したことがきっかけで始まったのですが、約半年間企画から運営まで全てを自分たちで行い、実現させることができ素直にうれしく思います。



# 学生の活動

## 第一回 修士課程学生プロポーザル デザイン

コンペティション「新宿副都心の再生」で特別賞を受賞しました。

新宿西側に上下レベル差の解消という建築・土木的操作と、マネジメントや新たな交通の導入等によって、オフィスワーカー・外国人観光客・住民の回遊・滞在を促し、東側とは異なる緑豊かな副都心となることを提案しました。

小田健人, 栗田恵, 末富亮, 柳橋大志 (川向研究室), 本田美保 (吉澤研究室)



タイ武者修行 に参加しました。

タイの山岳民族であるアカ族が住む村で、竹の家を実際に一軒建てることにより、彼らの生活文化を学ぶことができました。自然を生かした無理のない彼らの暮らし方は、これからのライフスタイルの在り方を示唆していました。

早川貴光



## (公社) 日本造園学会 関東支部 第 11 回学生デザイン

ワークショップ サマースタジオ 2015 に参加しました。

2015 年のテーマは「2020 年東京五輪マラソンコースを手掛かりに東京の都市の未来像を提案する」。私達のチームは、東京に見られる様々な交通インフラによる重層空間を活用したマラソンコース、更にそこから見える未来の東京のランドスケープを提案しました。

栗田恵, 鈴木宗一郎, 宋歆月, 柳原仁



デジタルスタジオ で活動しました。

2015 年度は 3 回に渡る海外への遠征、福島を拠点とした長期的まちづくりへの取り組みなどプロジェクトベースで活動を行っています。実践的に社会と関わることで視野思考領域を広げるとても良い機会となりました。

末富亮



## 日新工業建築設計競技「水のテリトリー」に応募しました。

現代の都市では日常と水がインフラや土木によって切り離されてしまっています。そこで、北千住を対象とし、水のメタファーとなるような媒体として【橋】を挿入することで、都市の日常が人々に水を想起させます。

鈴木俊, 柳原仁



日本建築学会シャレットワークショップ に参加しました。

学生と市民が連携し、小田原市のまちづくりデザインを考えました。私の班は、小田原城の堀跡を復元するまでの 50 年の軌跡を、歴史と現代の暮らしが共存するよう設計しました。この WS を修士設計に繋げて進めています。

木崎美帆





# ピクニックインタビュー

ピクニックインタビューでは、毎年ゲストを招き一緒に食事を楽しみながら、くつろいだ雰囲気の中でお話を伺っています。今回は、所沢航空記念公園に古橋大地さんをお招きしました。

2015.10.18(SUN)13:00-16:00@所沢航空記念公園

## 古橋大地

青山学院大学地球社会共生学部教授。マップコンシェルジュ株式会社 代表取締役社長、オープンストリートマップ・ファウンデーション・ジャパン理事、OSGeo 財団日本支部理事。専門は地図学、森林リモートセンシング。東京大学大学院 新領域創成科学研究科 修士課程 (環境学) 修了。



## この分野に興味を持つようになったきっかけは？

僕は地理学専攻だったんだけど、コンピュータが好きで、フィールド調査を主とする同級生とは違い、常に PC やサーバの前に座って研究をしてきました。大学院を出た頃に web 2.0 が流行り始めて、地図でも何かできるだろうと漠然と思っていました。web 2.0 の重要な要素に UGC<sup>#1</sup> とか CGM<sup>#2</sup> があって、YouTube やニコニコ動画、Wikipedia みたいにユーザ側がコンテンツを上げる仕組みがワットと広がっていった。当然、ユーザ参加型の地図サービスも各社が始めました。Google のマイマップや Yahoo!Japan のみんなの地図とか。僕も一時期 Google Maps とか Google Earth ばかり使っていたけど、何ができないかがわかってきた時にそこを補うのが OSM<sup>#3</sup> だったんです。



## イングレス<sup>#4</sup>に関連してどのような活動をされていますか？

最近ではイングレスの仕組み自体が普及してきています。ゲームと捉えることもできますが、防災ツールという視点でも結構使えるんです。まず、その場に行かせる仕組みがあること。ポータルというエネルギーが湧く場所に登録されているのは、景色のいい場所だったり、神社・仏閣系も多くて、自分の住む街の普段知らなかったものが見えてくる。帰宅時に駅から家までのルートを徘徊したりしているうちに地元のイングレス仲間ができてくる。まちのことを知っていたり、人とのつながりがあると、災害時に強い。それから、ポータルには情報を書き込むことができ、この場所で災害が起きたらどんなことが起きるかも書ける。イングレスではポータルの 40m 以内に近づかないといけなくて、そこで情報を読み込むと、立っているその場所で災害時に何が起こりうるのかが想像できる。人が集中する駅、木造家屋が多いところ、とか。



## 一方でクライシスマッピング<sup>#5</sup>は一般の人には入りにくいのでは？

クライシスマッピングによって被災地の地図が出来上がるということは理解できるけど、それをどう使うのか想像できないというパターンが多いんです。僕が会社を立ち上げようとしていた10年前なんてもっとひどくて、商工会議所でデジタル地図の必要性を話してもまったく理解してもらえなかった。その後 GoogleMaps が出て、それが便利だと思える人が増えて、説明が楽になった。状況は変わってきています。すると今度は GoogleMaps があれば十分でしょと思う人が多くなって、でも GoogleMaps じゃできないこともいっぱいある。特に被災地で。この前の鬼怒川の水害エリアってどこからどこまでか GoogleMaps で分かりますかっていうと分からないじゃないですか。OSM には反映されてて、それがボランティアベースでできているんです。今そういうことが可能になっている。





## 丹羽由佳理助教の退任に寄せて

5年間伊藤研究室の助教を務めた丹羽助教が2016年3月で退任となります。丹羽助教から見た5年間の伊藤研究室の印象と伊藤教授と在学生からの丹羽助教の印象を聞きました。

「すごい災害訓練」についておしえてください。

世界銀行<sup>※6</sup>のGDFRRという防災部門で、従来通りインフラ整備にお金を出すだけでなく、災害時対応ができるコミュニティを作る開発合宿イベント Race for Resilience が去年の2月に始まりました。僕が日本の代表で、世界防災・減災ハッカソン<sup>※7</sup>として始めたなかで、名古屋会場での優勝作品が、「すごい災害訓練」でした。子どもを校庭に集めて消防車が来てという普段の避難訓練は、現実的でない。むしろみんなが違うのが当たり前という考えから生まれた、新しい災害訓練のあり方です。一番難しい状況でシミュレーションするために、浦安市で実践してみたのは、夏休みの昼間の災害。親は都内に働いていて、子どもたちがバラバラで地域内にいる。その状況で一番頼れるのは中高生だから、中学生にどこまで任せられるのかを実践してみました。参加した子どもたち全員に配布したタブレット端末に対策本部から指示が出る。指示がないときは自分たちで考えて行動する。地域によってシナリオは違うので、準備にすごい時間かかりました。でも、それによって皆が地域の良し悪しを知り、細かい情報まで共有できるようになりました。

### 都市計画を学んでいる学生に向けてのメッセージ

世の中の変わるスピードはどんどん速くなっています。GoogleMaps/Earth が出て今年で10年。それ自体の進化はある程度止まってもイングリセといった Google Earth 2.0とも言うべき新しい仕組みができてきています。位置情報の技術もがらっと変わる可能性が大きい。たとえばスケール。昔は20万分の1地図だったのが、イングリセでは40m、これからは物の位置情報が数センチ単位でわかるようになる。ピクニックスケールの位置情報が捉えられるとなると発想が変わるでしょう。それを自分の分野に活かせばいいかなと思います。一番ウォッチすべきは Google。自社の人工衛星で地球の様子が分かるとか、民間でそれだけの力を持ってしまっている。Google が次に何をやろうとしているかを理解して、Google に負けずに使いこなしてほしいです。



- ※1 UGC(User Generated Contents): ユーザー参加型で生成されたコンテンツ。
- ※2 CGM(Consumer Generated Media): インターネットなどを活用して消費者が内容を生成していくメディア。
- ※3 OSM(OpenStreetMap): 自由に利用でき、編集機能のある世界地図を作るための共同作業プロジェクト。
- ※4 イングリセ (Ingress): 位置情報を活用したスマートフォン向けの陣取りゲーム。
- ※5 クライスマッピング: 災害時に一般市民が入手可能な情報をもとに、インターネット上に被害の状況が反映された地図をリアルタイムで作っていく「リアルタイム被災支援」地図情報。
- ※6 世界銀行: 各国の中央政府または同政府から債務保証を受けた機関に対し融資を行う国際機関。
- ※7 ハッカソン: プログラマーやデザイナー、設計者、プロジェクトマネージャーが集団的に新しいアイデアを実装をする開発合宿イベント。

伊藤研究室は、何よりも居心地が良い！です。私を感じた居心地の良さは、1. 研究が自由、2. 先生がフランク、3. 学生がしっかりしている、この3点だと思います。学生が各々に新しいテーマを持っているので、調査も幅広く、分析方法も多種多様で面白かったです。それから上司でありながらも、たまに旧友のように相談できる伊藤先生との関係は本当に有り難かったです。今後も伊藤先生と共同研究したいな！と勝手に思っています。最後に、研究室の学生には何度も助けられました。皆、ありがとう！・・・そんな私の5年間でした。

丹羽由佳理

調査や研究のアイデアにあふれ、学生の良いところを引き出しながら学生と共に走っている人。良い研究者・教育者・実践者だと思います。更なる活躍に期待！

伊藤香織

常にアンテナを高くし、私たちの近い目線に立って常に明るく、学業だけでなく様々なアドバイスをして下さる大好きな先生です。

修士2年 權田貴之

丹羽先生は面倒見がよく卒業論文では大変お世話になりました。本当にキャパシティが広く、若々しく、スーパーウーマンだと思ってます。

修士1年 柳原仁

学生と近い距離で、私達の話を楽しそうに聞いて下さる印象です。活動や研究を気にかけて下さり、気軽に相談をさせていただきました。

学部4年 柴田史奈



## 2014 年度卒業論文 (通年)

まちづくりの活動場所に関する研究  
- 「住民創発プロジェクト」を対象として - 石川杏奈 中村健人

美術館・博物館における建築ツアーに関する研究  
武田遼介 田中惇資 峯田もえみ

フィルムコミッション活動の効果と課題 吉村元宏

## 2014 年度卒業設計

故郷になる町 (千葉県建築学生賞 奨励賞) 栗田恵

建築するということ 酒井祥樹

都市のアイロニー 鈴木俊

再編、そして更新へ 鈴木宗一郎

墨の間 宋歆月

木密地域の更新 園部伊世

団地解放 土谷知世

都電の記憶を重ねる 早川貴光

雁行する建築 柳原仁

## 2014 年度修士論文

商店街の地域防災力に関する研究  
- 商店主の意識調査に基づく分析 - 大矢遼太

空間バリアを考慮した移動制約者のアクセシビリティ  
- 地下鉄駅を目的地とした歩行 - 高橋真有

施設名称にみる地名認識の空間分布 竹中翔

公民館の使われ方と利用者意識  
- 船橋市東部ブロックを事例として - 西村尚宏

オープン飲食店の街路空間利用に関する研究  
- 赤羽駅東口を事例として - 三緒宏徳

シェアードワークスペースが誘発するつながり  
- 施設内での会話とコミュニティに着目して - 矢萩智

今治みなと再生事業におけるプロセスと市民の関わり 吉田恵子

## 2014 年度修士設計

想いの集積  
~テキストマイニングを用いた設計手法の提案~ 川上秋子

顕在化させる建築 平野淳也

場としての建築 渡邊諒

## 論文等

「地域子育て支援拠点における親子間距離と空間利用」  
丹羽由佳理・伊藤香織 (2015), 日本建築学会計画系論文集, Vol.80, No.718, pp.2781-2790. (査読付論文)

“Changes in City Space Familiarity and Preferences among Short-term Visitors”  
Hirakawa, S. and Ito, K. (2015). The 27th International Cartographic Conference, Proceedings. (簡易査読付プロシーディングス)

「街路通行者の行動分析：神楽坂地区の路地と坂道に着目して」  
早川貴光・伊藤香織・丹羽由佳理 (2015), 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.613-614. (査読無プロシーディングス)

「子育てひろばにおける利用者の行動特性」  
柳原仁・宋歆月・丹羽由佳理・伊藤香織 (2015), 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.1021-1022. (査読無プロシーディングス)

「公園の形状と内部からの景観の関係性についての研究：大田区の街区公園を対象として」  
鈴木俊・鈴木宗一郎・栗田恵・伊藤香織・丹羽由佳理 (2015), 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.1043-1044. (査読無プロシーディングス)

“Changes in Historical Land Use and Current Space Utilization Patterns in a Japanese Fishing Village”  
Ishibashi, S. and Ito, K. (2015). Association of American Geographers 2015 Annual Meeting. (研究発表)

